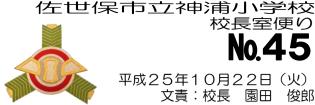
ALLITTLE SCHOOL WITH BIG DREAMS 大きな人間づくり"



平成25年10月22日 文責:校長

FII EUG ENEEUN

我が家には息子が二人。20歳を過ぎましたが、まだ大学院生と大学生で、親のすねかじり状態です。 私もみな様と同じように子育てをしてきました。子を持つ親として、子どもの教育に携わる教員として、 『子どもを育てることは、難しいなぁ・・。』日々そのように感じます。保護者の皆様も、日々の子育て の中で、大きな喜びがあったり、様々な悩みがあったり・・という事はよくあるのではないでしょうか。 親として、また保護者と教師として、互いに学び合っていければいいなあと思っています。

以前、『子どもの心のコーチング(菅原 裕子著)』という本を読みました。 今回はその本の内容から一部を抜粋、要約してご紹介します。

文字ばっかりですが 読んでくださいね。

親の役割は何?

~子育ての視線は、子どもの今ではなく、未来へ~

・・私たち親は**、とかく『今』に焦点をあてがち**です。・・・

今、子どもは安全か・・今、子どものまわりで親の望むとおりのことが起きているか・ 『今』に焦点をあて、そのとおりになっていないと口を出し、手を出します。

そうすることで親は、「今の安心と秩序」を手にするのです。しかし、その一時の安心と秩序に焦点を あてすぎると、子どもの一生から、**自主性とそこから生まれる喜びの芽を摘み取ってしまう**ことがあり ます。**子育てをする時、私たち「親」が目指すべきは、子どもの未来です。**今の子どもがどうであるか 以上に、子どもが成長した姿を目指して子育てしなければなりません。今、親がやっていることの延長 線上に、本当の子どもの幸せがあるかどうかを、一度立ち止まって考える必要があります。・・・・・・

親が目指す子どもの未来。それは彼らの幸せな姿です。そして,それは,**人に頼らず,人生を自分で切** り開いていける自立した彼らの姿なのです・・・。

『飢えている人がいたら、魚を釣ってあげますか? それとも魚の釣り方を教えてあげますか?』 これは人を援助する時の援助者の立場を比喩的に表したもので、よく使われている例です。

魚を釣って与えることは簡単です。しかしその場合、飢える人は、飢えという問題を**自分で解決する** ことなく人を頼って生きることになります。大きくなっても人を頼って生きる人間になります。

一方, **釣り方を教えられた人**は例え時間はかかっても, 教えるのは大変でも, いずれ**自分の力で魚を 釣ることが出来るようになり**、そうすれば援助者を必要としなくなります。(自立するということです。)

子どもの『今』を守るために、『今の安全・安心』を守るために、**安易に子どもを課題や危険から遠ざけた**

り、避けさせたり、人間関係に口を出したりしている事はないでしょうか。

このことは、実は「子どものため」ではなく、親の自己満足に他なりません。 子どもの『未来』を考えた時、本当に必要なのは、子ども自身に経験をさせ、 考えたり、判断したり、処理したりする方法を教え、力をつけてやることであ り、『**自立した子ども**』に育てることです。(放任とは違います。)

自分自身の力で判断し、処理する事のできる力を身に付けさせることです。 それを実際に行うのは大変なことです。忍耐が必要です。時間も必要です。 苦労を伴います。だからこそ、安易に『今』に焦点をあて、すぐ口を出し、手を

出してしまうのです。子どもではなく、親自身の「安心と秩序」を追い求めてしまうのです。

『親』として本当に必要なこと、やるべきことは何なのか、丁寧に考えて子育てに臨みたいものですね。

